

パネルディスカッション

研究データマネジメントの地域間連携

～九州地区からの報告～

九州大学

データ駆動イノベーション推進本部 研究データ管理支援部門
(システム情報科学研究院 情報学部門)

富浦 洋一

- 2024年度から九州地区の拠点校として参加
- 2024年6月頃の九州地区(国立11大学)の状況
データポリシー策定済:8大学, ポリシー解説あり:5大学.
実施要領策定のためのガイドラインは九大のみで, 他はポリシー・解説策定から先の取組みが進まず.
- 九州地区の本事業の方向性
 - ・ 九州・沖縄オープンユニバーシティ(KOOU)のネットワークを活用
九州・沖縄の全11国立大学の研究力向上に関する連携協力の共通プラットフォーム
 - ・ 国立大学を中心とした取り組みを行い, その成果を公私立大学に還元
 - ・ 2024年度
各大学の状況把握・課題確認 ← 対面での意見交換会, ワークショップ
 - ・ 2025, 2026年度
情報共有, 困りごとの相談
(リテラシー教育のための教材提供, RDM実施要領策定までのアドバイスは九大から提供可)

■ KOOU 研究データ管理・利活用WG・推進連絡会情報交換会(2024年11月18日, 福岡)

- ・国内の状況, 海外の事例紹介
- ・参加9大学からの状況説明
- ・全体討議

■ KOOU-RDMスタートアップワークショップ(2025年2月13日～14日, 沖縄)

9大学28名, 外部講師・オブザーバー等を含め, 合計37名参加

- ・国内, 海外の事例紹介
 - 豪州シドニー工科大学, 英国エдинバラ大学 (九大図書館職員)
 - 「研究データエコシステム東海コンソーシアム」の支援事業振り返り(2023~24年度) (名古屋大学 青木先生)
 - 名古屋大学のRDM2024年度 (名古屋大学 浅川先生)
 - データ公開を実効的に進めるための金沢大学の学術データポリシーの改訂とその実施細則・ガイドラインの策定 (金沢大学 長井先生)
- ・グループ討議
 - テーマA「大学内での意識醸成・研究者への啓発」
 - テーマB「データストレージ」
 - テーマC「ポリシーの実効化」
 - テーマD「データ公開までのプロセス」

地域間連携の取組み概要

■ KOOU 研究データ管理・利活用WGの slack 運用開始 (2025年2月)

情報共有, 意見交換の場.

困りごとの相談ができるネットワークに発展することを期待. 今のところ, イベント案内・事務連絡のみ.

■ 九州地区大学図書館協議会交流集会 (2025年9月1日)

講演「大学における研究データ管理について」および 意見交換会

目的：主に, 公立・私立大学への情報提供

現地参加21名, オンライン参加40名

■ 九州地区医学図書館協議会総会 (2025年10月3日)

講演「大学における研究データ管理支援」および グループ討議

目的：主に, 公立・私立大学への情報提供

現地参加26名, オンライン参加13名

■ KOOU 研究支援人材の資質向上WG／研究データ管理・利活用WG 合同ワークショップ (2025年12月11日～12日 開催予定, 大分)

■ 支援体制の構築・支援サービスの立ち上げ

- ・推進体制・役割分担
- ・限られた人員・予算でどう実現するか, 進んだ事例のみを参考にせず, どこまでやれるか要検討

■ データポリシー関連

- ・ポリシーの実効化
- ・部局間だけでなく, 部局内でも温度差
- ・研究者が最低限やるべきこと, 支援側が対応すべきことの同意・決定
- ・メリット/デメリットを明示

■ RDM教育

- ・研究者にとってのメリット・インセンティブ
- ・適切な研究データ管理によるメリットの事例共有
- ・若手研究者への教育

■ 大学内の意識醸成・研究者への啓発

- ・データの管理・公開のメリットをFDやe-Learningで教育(分野でRDMの厳格度が異なるので分野毎か?)
- ・グッドプラクティスの蓄積・共有, 研究者への広報
- ・RDM支援は学内の一つの部署だけでできるものではなく, 他部署への問い合わせが必要になるが, 関係する部署がお互いのことをよく知っているとうまく回る. 逆に問い合わせを通じてお互いを知るのが重要
- ・学生への教育

■ ポリシーの実効化

- ・実効化するための実施細則をどう作るか, そのための体制づくり
 - 主導する「誰か」は必要. ボトムアップの活動と執行部からのトップダウンの関与が重要
 - 研究サイクルに沿ってデータマネジメントができるようにDMPを構築すべきで, 現在構築中(名古屋大学, 金沢大学)
 - 研究者を巻き込めていない → 即時OAが良い契機? 即時OA義務化とセットで, 部局を回って説明会(FD)を実施
 - 異動時のデータの取り扱いに関する規定, あるいは契約が重要 → これもDMPに記載するとよい

■ データ公開までのプロセス

- ・メタデータ入力をずっと図書館がやるべきか?
 - 提案レベルの補助を図書館が担うと良いかも
 - 入力は教員, 図書館は形式的審査, URAは実体審査がよいのでは
- ・ケーススタディを通じた公開プロセスの注意点
 - コンソーシアムで相談できる仕組み(プログラミングコードのライセンスについての相談)
 - 輸出管理のチェックが必要(炭素繊維強化炭素材料に関する論文投稿における査読者からの根拠データの共有要求)